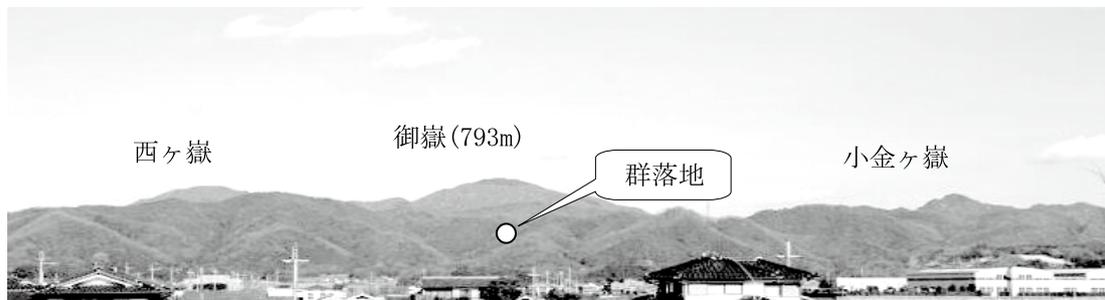


多紀連山のクリンソウ群生の実態、植生調査、保護活動そして里山文化再生

多紀連山のクリンソウを守る会

一、多紀連山のクリンソウの実態

- 1、多紀連山は県立自然公園に指定され、東西約20 kmに亘る山群で篠山市の北部に位置する。主峰は御嶽（793 m）を中心に左右に西ヶ嶽（727 m）、小金ヶ嶽（725 m）が連なる。クリンソウはこの主峰三山の中央部位（篠山川源流標高 530 m）から下流谷筋に広がっている。最大の群落地（Aゾーン）は御嶽直下、へそ部分で約 4100㎡台地に約 70,000 本が開花する。その他周辺部（B～Hゾーン）にも数百から数千株単位の群生地が東西約3キロ内に広がっており、まさにクリンソウの連山。
- 2、多紀連山のクリンソウ自生地は兵庫県版レッドリスト、植物群落湿地植生Aランクに指定されている。植物（維管束植物）はBランク。



二、植生、生態調査・研究

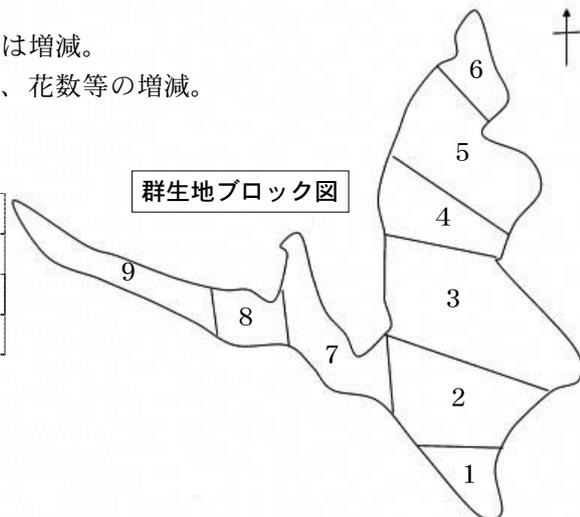
最大群落地Aゾーン 4103㎡を9ブロックに分割、各ブロック毎に定点観察枠を設け、芽生え・開花・結実・越冬状況等について観察。

1、クリンソウ生態変化

2007年6月発見時から（実質3年）3シーズンの生態をみると明らかに各ゾーン、ブロック毎に変化が生じている。

- ①ブロック全体の個体数の発生・消滅または増減。
- ②ブロック毎の発育良否により葉数、段数、花数等の増減。
- ③一年生未開花株のブロック毎の増減。

施行地	篠山市火打岩		
測量日	H20.4.15	面積	0.40 [ha]
閉合比	1/211	測量面積	4103 [㎡]
		縮尺	1400分の1



2、生態変化の原因と研究課題

- ①気候・・・2010年4月は天候不順で農作物への影響が懸念された。クリンソウの開花も約1週間遅れ各ブロックの生育は例年に比し小振りて花茎、花実ともに例年に比し見劣りした。
- ②水流・・・雨量の増減により水流筋の変化が見受けられ、乾燥地の出現、土砂の崩れ、増

水による根の流出、等が見受けられ生育の変化が常時発生している。

- ③日照・・・ゾーン内また周辺部には各種の樹木が繁茂しており、年々生育と共に日照条件が変化している。そのためゾーン内での発育状態が一定でない。
- ④共生植物・・・シダ類、マツカゼソウとの共生個所が多く繁殖期にずれがあるものの、閉花後それらの下に埋没している個所が多数見受けられる。
- ⑤獣害・・・鹿、イノシシには食されないが、踏み荒らし、ヌタ場等により根が荒らされており生育に影響が出ている。ただ鹿が食さないために全国的にクリンソウが増加しているとの説がある。
- ⑥倒木、枯枝、・・・これらが堆積すると乾燥化が速まると云われている。
- ⑦観察路・・・修験道時代の古道、跡地を活用しており生態破壊は軽微と捉えているが踏み固めによる影響がでてくる。
- ⑧採取・盗掘・・・観察者のマナーの良さと地元の目もあり現状維持されている。

3、クリンソウの一生（植生・生態調査）

- ①各ゾーン内に定点枠を設置。
- ②10年間に亘り3、5、8、11月を調査月とする。
- ③株数、葉の数、花の段数、花の数の変化を見る。
- ④カメラ基点を設置し定点枠内、全体写真撮影を行う。
- ⑤授粉の実態。
- ⑥種子、根茎からの発芽から終花の実態。
- ⑦共生樹木、植物の生態変化を観察する。
- ⑧周辺部の植生調査を行う。



三、保護活動と課題

2008年から公開に踏み切ったが、基本的に「保護と公開」は相反するテーマであるが大自然のなかのクリンソウ群落は観察者に深い感動を与え、自ずから保護・保存への気運が高まっている。

1、保護活動

- ①保護標識設置（採取、踏み荒らし、他種持込み等の禁止）。
- ②保護ロープ設置。
- ③観察路の設置。
- ④公開・観察により地元を中心に自然環境保護・保存意識を広める。
- ⑤ゾーン内外の自然環境保全を最大の目標とし、人工物、人為は極力避け環境破壊を阻止する。
- ⑥ゾーン周辺部の樹木、植物に名札を付すことにより、自然への関心度を高める。
- ⑦例年二月に勉強会（講演会）を開催し、多紀連山を取りまく自然環境、歴史等についてその価値を再認識している。



2、保護活動の今後の課題

- ①県・市による保護条例制定の可能性の有無。
- ②広報（ポスター、報道機関等）による保護の協力要請。

③全国野生植物保護団体との交流、情報交換。

④次世代への引き継ぎの為、地元小中高また大学サークルとの連携強化。

3、その他の課題

クリンソウの調査・研究が多紀連山のその他植物の植生、鳥類、獣類、昆虫類等の解明に繋がり自然への関心が高まれば幸いである。

四、里山文化の再生

1、地域との連携

近年生物多様性が注目を集め、里山の価値が見直され、多紀連山のクリンソウ公開以来、新聞報道、観察者、自然愛好者・団体等により全自然群落地の評価が高まり、地元自治会、市の関心度も増し地域活性化の足掛かりが出来つつある。

2、歴史と自然の散策路網

多紀連山は平安末期から室町末期にかけて修験道で栄えた歴史があり寺跡、行場、遺跡等が点在する。またクリンソウ以外にもヒカゲツツジの群生地等見所は多い。身近な里・山として、子供から大人までが共に楽しめるコースづくり、里づくりに協力したい。

五、多紀連山は財産

自然環境に加え、修験道の歴史的文化遺産を有するこの山群は篠山市、兵庫県の財産であり、貴重な全自然クリンソウ群生地を保護・保全、調査・研究し、この素晴らしい財産を次世代に引き継ぐことが「守る会」の役割と考えます。